

平成 24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 宮 小 学校
校長氏名	谷田 幸雄
作成日	平成25年 2月 21日

1 教育目標

--

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの子どもを深く見つめる ・学校からの情報を積極的に発信する。 ・地域に学校を開く。 ・保護者との連携を深める。 ・危機管理の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの心をたがやす ・人権意識を高める。 ・心に残る道徳の授業を進めていく。 ・生徒指導の徹底を図る。 ・「うちどく」の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「授業」で子どもを鍛える ・学ぶこと、わかる楽しさを教え確かな学力を身につけさせる。 ・授業を変える。 ・聞く姿勢を育てる。 ・学び合える学級集団づくりに力を入れる。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に課題を持つ子どもを応援するため特に遅刻してくる児童を学校全体で見守った。 ・特別支援教育視点を取り入れた授業づくりに取り組んだ。 ・学校だよりは日頃お世話になっている地域のみなさんに直接お配りした。ホームページにも掲載するようにした。 ・地区懇談会を、学校を開く機会ととらえて、積極的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同和人権教育の授業を計画的に行うため、同和・人権教材一覧を作成し取り組んだ。 ・教室で子ども同士のもめ事が起きた時には、道徳授業で学習したことを想起させ指導してきた。 ・基本的な生活習慣や生徒指導の徹底につとめる。あいさつや帽子、名札、履き物をそろえるよう常に働きかけてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力や昨年度の学習状況調査の結果をふまえて取り組んできた。 ・授業研究や研修を通して、授業の改善をに取り組んできた。 ・読書タイムや国語力の向上のための学校全体での取り組みとしてみよりの集会で各学年ごとの音読発表をした。 ・ICT活用方法について機器を使った研究授業の提案があった。
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・通級教室があることにより、一般学級の担任が様々な相談等が積極的にできるようになった。 ・地区懇では、同和人権教育について提案、啓発を行った。啓発に対する意見も出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、「いじめ」に関しては厳しい結果になっている。児童と保護者に「いじめは許さない」という取り組みをもっと知らせていかなくてはいけない。 ・豊かな心、優しい心を育てるための学級・学年経営がさらに必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書タイムにおいてはさらに集中して読書ができるよう働きかける必要がある。 ・授業研究が活性化した。 ・聞こうとする姿勢が伸びている。 ・ICT活用に積極的な授業や教員を増やしていく必要がある。
次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育を積極的に進める。また校内の研修にとどまらず和歌山大学、紀北支援学校、和歌山ろう学校等との連携を深めたい。 ・防災の面からも地域との連携が一層必要と思われる。津波時の避難訓練もやっていく必要がある。 ・地区懇での提案内容については吟味し、子どもに対してどのような取り組みをしているかをもっと前面に出していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が一人ひとりを大切に、小さなことでも相談できる学校であり、保護者と協力して子育てすることが必要である。 ・さぼーと教室、スクールカウンセラーはじめ関係機関との連携により、子どもや保護者の相談にのっていききたい。 ・保護者や児童に対して謙虚な姿勢も大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学習を徹底して、理解しにくい児童に具体的な手立てを打つことが必要である。 ・学習の意欲を引き出す努力をさらに進める。 ・キャリア教育の面からも学習の意欲を高めていきたい。

3 その他の課題

--